

「自民党を離党するという考えはないのでしょうか？」

令和3年7月7日

●そうまんからの質問

西田先生に質問です。もし西田先生と思想が近い政党が国政に進出したら、自民党を離党するというお考えはないのでしょうか？正直、自民党では先生の理想は実現されないように思います。西田先生のお考えをお聞かせください。

●西田昌司の答え

「自民党は駄目だから新しい政党を作って保守の再編をすべき」という意見がありますし、そのために離党をすべきとの声を昔から頂戴しておりますが、私には全くその考えはありません。

自民党は、昭和30年の結党以来、何度か分党の状態になりました。新自由クラブ、新党さきがけ、新生党といった（自民党からの）分派がいくつも登場しましたし、実際に政権交代した民主党には元自民党の先生が何人もいました。しかし、その結果は全て失敗に終わっています。自民党が劣勢となればそれがカンフル剤にもなるのですが、その後、勢いを取り戻した自民党はやっぱり駄目だということを繰り返しています。

日本は戦後、GHQが作った戦後レジームにどっぷりと浸かってしまい、日本人の伝統・精神・歴史観を失ってしまいました。それらを取り戻して当たり前の独立国となることが政治の一番の目的のはずですし、それこそが自民党の使命です。現行憲法や財政法は戦後レジームの落とし子ですが、それらから脱却するには自民党自身を変えなければなりません。

立憲民主党や国民民主党といった野党は自民党を批判しますが、彼らが戦後レジームからの脱却を自民党以上に意識しているかということ、残念ながらそうではありません。自民党にも間違いが沢山ありますから彼らの批判は謙虚に受け取らなければなりません。彼らが政権をとったところで戦後レジームからの脱却は果たせません。なぜなら、戦前を否定して戦後を肯定するのが彼らの根本であるからです。

(戦前と戦後を含めて)日本とはどのような国なのかという大きな視点が必要ですし、そのような視点で国民に地道に訴えていかなければなりません。自民党が駄目だからといっても、自民党と同じく戦後レジームに浸かった野党では結局自民党を超える仕事はできません。

自民党の中には、戦後レジームからの脱却に意識がある先生が少なからずいます。しかし、「戦後レジームに浸かった国民に戦後レジームからの脱却を訴えたところで国民の反発を買うだけだ」と、国民に語りかけるのに普通は躊躇するでしょう。そんな中、その面倒な仕事を引き受けたのが安倍総理だったのです。

政治家は国民の信託により政治に携わっていますが、政治家を選ぶ側の国民に戦後レジームからの脱却の意識がなければ、戦後レジームからの脱却など果たせるはずがありません。

安倍総理が誕生してから私は支えてきましたが、安倍総理といえどもそう簡単には前に進めませんし、間違いも沢山ありましたが、自民党結党の精神に立ち返って少しずつ前に進んでいくしかありません。

結局、戦後レジームからの脱却を果たすには、自民党を変えていく以外に方法はないと私は思っています。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>